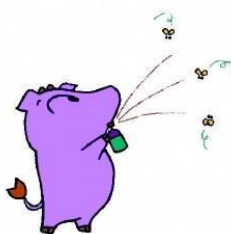


# ハエの防除対策をしましょう



気温が上昇し、ハエの発生が目立つ時期になりました。

対策を怠ると大量発生し、家畜へのストレス・病原体の媒介・近隣からの苦情など深刻な弊害を生じます。薬剤を適切に使用し、効率的な防除に努めましょう。

## ★ハエのライフサイクルと対策★

卵



うじ



さなぎ

成虫



### 1. 発生源対策

- ・畜房のすみ、残餌、汚水だまり等を清掃し、ウジが育つ場所をなくします。
- ・適切な堆肥処理により、発酵熱と乾燥でウジを退治します。温度 40℃以上、水分 50%以下の条件でふ化率が激減します。卵がふ化しない1週間以内の間隔で切り返しを行うことが重要です。

### 2. 幼虫対策

- ・昆虫発育抑制剤(IGR剤)の使用が有効です。薬剤の容量・用法を守り、適切な間隔で十分な量を均一に散布します。

### 3. 成虫対策

- ・ハエが増えてきたら、IGR剤の散布回数を増やし、毒餌法をあわせて実施します。毒餌法は、市販品のほか、ハエを引きつける餌(砂糖、粉ミルク、お酒、糖蜜など)に有機リン系、カーバメイト系の薬剤を混合して、成虫を退治します。
- ・家畜やペットが誤って口にしないよう注意して行ってください。

飛騨家畜保健衛生所(飛騨総合庁舎内)

〒506-8688 高山市上岡本町7-468

TEL:0577-33-1111 FAX:0577-32-9019 E-mail:c24508@pref.gifu.lg.jp



# 牛伝染性リンパ腫（旧 牛白血病）伝播防止のため サシバエ・アブ対策をしましょう

サシバエやアブは吸血を行い、牛伝染性リンパ腫ウイルス(BLV)を媒介します。  
また、吸血ストレスにより、採食量や泌乳量が低下する可能性があります。

	サシバエ	アブ
発生時期	春先や秋口の涼しい時期	6月～9月(真夏の昼間)
吸血	雌雄ともに、刺して吸血	雌のみ、皮膚を切り裂いて吸血
発生源	糞便、堆肥(湿ったところ)	湿地、草地、森林等

## ★対策のポイント★

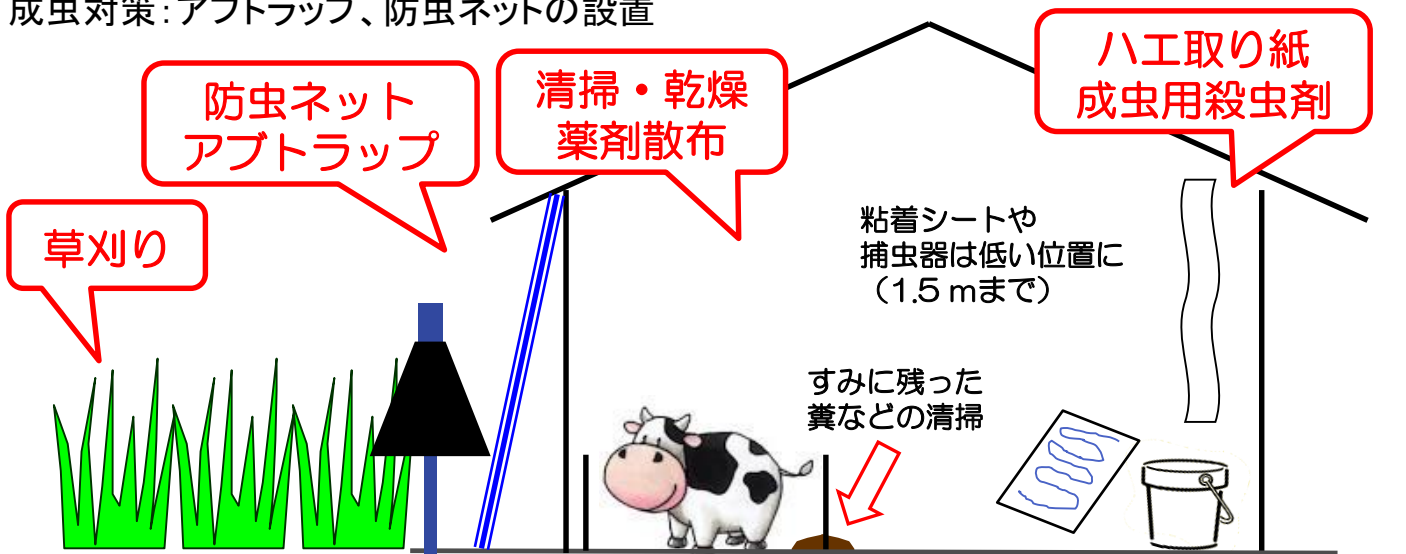
### ○サシバエ

発生源対策、幼虫対策(対策の基本はハエと同じです)

成虫対策: 休息場所となる草むらを減らす(草刈り)、防虫ネットやハエ取り紙の設置  
殺虫剤含有耳標の装着

### ○アブ

成虫対策: アブトラップ、防虫ネットの設置



畜舎周辺や  
堆肥舎の清掃



給水器周辺  
の清掃



耳標型の虫よけは、吸血昆虫対策だけではなく、  
BLV抗体(+)と(-)でタグの色を変えると  
区別しやすいので、BLV対策にも役立ちます。

